

# 好奇心が強い？ 日本近海で観察される ミナミハンドウイルカ

## 沿岸で暮らす野生イルカ

沿岸に群れをつくって暮らし、人間をみても逃げずにときに向うから近寄ってくることもあるため、ウォッチングやドルフィンスイムの対象にする地域が日本でも多いのが、ミナミハンドウイルカです。

比較的あたたかい海を好み、日本では関東以南、小笠原諸島や伊豆諸島御蔵島・九州の天草や錦江湾、日本海の能登半島などで観察されます。世界的にみると、アフリカ大陸の南岸からインド洋、そしてオーストラリア北部からインドネシア、台湾、日本を含む太平洋の西岸で生息が確認されています。

多くの場合、ある一定の場所で長期にわたり決まった群れが観察されるため、定住型の種とされます。群れの大きさは、数頭であったり、数十頭であったり、場所によってはときに数百頭にもおよぶ群れで行動しているのが観察されることも。

## オスとメス、年齢で変わる「群れ」

島の周辺に多くのミナミハンドウイルカが観察され、1993年から研究者らによって調査・研究が続けられている伊豆諸島御蔵島では、群れは、主に二つのグループに

分けられます。一つは、数組の親子を中心とする「親子群れ」。そして、もう一つは若いオスが集まる「若オスの群れ」です。

「親子の群れ」にはまだ出産をしていない若いメスもみられ、まるで“子守り”をしているように他のイルカの子どもと並んで泳ぐ姿も観察されます。一方、「若オスの群れ」では、活発な行動がみられ、ときに尾びれで他のイルカの体を叩いたり、ペニスを押し付けたり…、まるで取っ組み合いのけんかをしているように見えることがあります。調査開始当初、これらの行動は「交尾ではないか」と思われましたが、群れのすべてがオスのことも多く、研究の結果、現在は「交尾の練習」とも、これらの行動を通して仲間同士の絆を強めているのではないかとされています。

ミナミハンドウイルカの出産周期は、2～3年。子イルカは産まれてから1年半から2年ほど母親のそばで母乳を飲んで育ち、その後メスは母親と同じ群れで、オスは群れを離れ、同じぐらいの年齢の「若オスの群れ」で過ごすことが多くなります。そして、オスはさらに成長すると群れを離れて旅に出るのではないかと考える研究者もあり、少し離れた海域の群れの調査なども進められています。



## 時間帯で変わる群れの行動

1年を通して島の周辺にイルカが観察される御蔵島ですが、群れの行動はさまざまです。人間などに興味を示さず早い速度で移動をする群れや、ゆっくりと泳いで休憩をとっている大きな群れ、イルカ同士で活発に遊ぶ群れ…。それらをみると野生イルカの世界にも、食事や睡眠、遊びなどの暮らしがあり、自然の流れにそったリズムがあるのがわかります。

御蔵島ではイルカの夜間行動の調査は行われていませんが、同じように沿岸に群れをつくって暮らすハシナガイルカのハワイの調査では、「昼間は浅く明るい海で休み、夜に深い海で魚やイカを捕食している」という結果が発表されています。御蔵島周辺のイルカも昼間に大規模な捕食が観察されていないことから、同じように夜に捕食行動を行い、昼間は島周辺の浅い海で休憩をとっているのではないかと考えられています。

## イルカ同士のコミュニケーション

ミナミハンドウイルカの群れでは、2頭のイルカが胸びれ同士でお互いをこすったり、一頭がもう片方のイルカの頭やお腹などをこする行動がみられます。これは親



ミナミハンドウイルカの生息地域。太平洋西側からアフリカ大陸南側にかけての沿岸海域に生息する。

子や、頻繁にいっしょに観察される“仲のよい”イルカ同士のことが多いことから、イルカの愛情表現ではないかといわれています。

一方、相手に向かって大きく口を開けたり、体をSの字に曲げたり、尾びれで水面を強く叩く行動は、イルカの威嚇行動と考えられています。これらの行動は、ウォッチングをしている人間に対して行われることも少なくありません。近くに生息していても、野生動物は人間とは異なる社会をもち、彼らの世界を生きていることを、忘れずにいたいと思います。

## イルカの棲む島 東京都御蔵島

東京から南に200km。伊豆諸島のほぼ中央に位置する、周囲16kmの島は、陸の大部分を巨樹の繁る森に包まれる自然豊かな場所です。この島の周辺に、100頭を数えるミナミハンドウイルカが生息しています。毎年、産まれたばかりの小さなイルカが観察されることから、島の周辺はミナミハンドウイルカの繁殖海域であるとされます。

水中で頻繁にイルカが観察される地域は少なく、御蔵島は世界的にみても貴重な海といわれ、多くの研究者が島の協力を得て、現在も調査を行っています。4～10月には、一般向けのウォッチングも行われ、研究者らによるレクチャーも実施されます。

### 【御蔵島 イルカのウォッチングルール】

- ・イルカの食事や交尾、出産などの自然な行動を妨げない。
- ・小さい子どもを連れた群れにはこちらから接近しない。
- ・水中で寄って来ないイルカのグループには再度エントリーしない。
- ・イルカに触らない。触ろうとしない。
- ・イルカに餌を与えない。
- ・スキューバダイビングでイルカに接近しない。
- ・ホイッスル、ダイビングコンピューターなど、人工音を発する器具は使用しない。
- ・水中カメラで撮影するときはフラッシュを使用しない。
- ・自撮り棒を使用して撮影しない。

御蔵島のイルカの詳しい情報は…  
御蔵島観光協会  
<http://mikura-isle.com/>

